

# 扶桑町の キリシタン関連 遺跡

## ①薬師寺にある舟型地藏尊と不動明王

本堂の西の隅の東西に面した小堂に地藏畑  
(②) から移された舟型地藏尊が祀られている。  
キリシタンが寛文年間名古屋で処刑された直後に  
建てられたものといわれる。当地方最初の有銘供  
養碑。

この像の南には通称「プチワリ不動」と呼ば  
れる破壊された不動明王の石像があり、キリシタン  
遺物とされている。



## ②地藏畑

キリシタンを斬込んだ地といわれている。江戸  
時代末期は草地で一基の石地藏だけが合った。明  
治維新以後、地藏を薬師寺の境内へ移し、跡を桑  
畑とした。現在は碑など何も残っていない。

## ③ササラ墓 (ササラ塚)

宗徒の処刑地と伝えられる。元は小塚で碑石が  
あったが昭和5年の開墾で碑は顕宝寺へ運ばれ、  
今はなにもなく場所も特定できない。

## ④顕宝寺

ササラ墓 (③) 石碑をここに移したと伝えられ  
ているが詳細は分からない。

## ⑤高木地藏寺の舟形地藏尊

年代からみてキリシタン供養の  
ものではないかとされるが詳細  
は分からない。



## ⑥正覚寺

キリシタン処刑の時、境内に穴を掘っ  
て宗徒を斬込んだと伝えられる。言い伝  
えによるとキリシタン弾圧の折、一人の  
農民が捕らえられ処刑された。その妻は  
連累者となることを恐れ、また、亡き夫  
の冥福を祈るため名を智純と改め尼とな  
り、所有の土地をこの寺に寄贈し、終生  
ここに住んだという。



## ⑦専修院

キリシタン斬込遺跡と伝えられる。寛  
永年間、キリシタンを斬罪に処し大きな  
穴を掘って埋めたという。  
当時は、本堂前広場の西端にあったが、  
その後、その跡に小堂を建て、青面金剛  
童子を祀った。明治24年の濃尾地震の  
折、倒壊したが、金剛童子は本堂に納め  
られている。

## ⑧恵心庵

江戸時代のキリシタン殉教と吊いの地。

寛文年間 (1661~1673年) のキリシタン取  
り締まりの時、捕らえられた信者は名古屋へ送られ詮  
議の後、処刑されたと思われる。しかしこの地から多  
くの遺骨が見つかり、また町内のあちこちに斬  
込地の伝承がある。  
これは当地で処刑され埋められたものか、名古屋で  
処刑されたのち埋葬されたものかは分からない。

元禄12年 (1699年) に当時の住人により舟形  
石地藏尊が建てられ霊を祀り冥福を祈った。やがて恵  
心という尼僧が草庵を創建し恵心庵と号し住んだと伝  
わる。



## ⑨ランポウ山

ランポウ山と呼ばれる一帯はキリシタンの屋  
敷跡とも、処刑場跡とも伝えられている。

『小治田之真清水』という古書には、「キリ  
シタン者ノ屋敷跡、山林一二町二反五畝トアリ。  
古来寺光乱法 (断法トモイウ) ト地名ヲ俗称  
ス」とある。ランポウとは法を乱すという意味  
だと思われる。

明治の中頃まで桑畑となっていたが、古井戸  
の跡がある。  
墓地の碑が中ほどにあったが、近くの覚王寺  
境内に移され、今は六地藏が残されている。



## ⑩白雲寺

恵心庵に建立された舟形地藏尊 (⑧恵心庵の  
説明中の地藏尊) は文政の頃、白雲寺の門前  
に移された。しかし現在は再び恵心庵に戻さ  
れている。



## ⑪長泉塚

長泉塚古墳を中心に約8反5畝の畑地は、長  
泉院と称するキリスト教会堂の遺跡で、布  
教者イルマン及び教徒の斬込地という。  
昔この地に小堂があり、イルマン主従が住  
んでいたという伝承がある。

## ⑫覚王寺

境内の墓地へランポウ山 (⑨) 墓地の碑が多  
数移されている。しかしキリシタン遺跡らし  
い特徴を持つものはない。  
建立の年も由来も分からない地藏尊一体と  
供養塔一基がある。  
心ある人が殉教者の冥福を祈って建てたも  
のと思われる。

